

部活動などの活躍

《吹奏楽部》
第59回東京都中学校吹奏楽コンクール B組
銀賞



《バレーボール部》
荒川区新人シード権大会 第3位
(3年生)
荒川区民秋季体育大会 準優勝
(1・2年生)
荒川区民秋季体育大会 第3位



本校に水泳部はありませんが、校外のクラブチームで活躍する生徒もいます。

〇〇 〇〇くん(3-4)
第69回荒川区民体育大会
水泳50m自由形優勝、水泳50m平泳ぎ優勝

〇〇 〇〇さん(1-3)
第67回東京都中学校学年別水泳競技大会
1年女子400m自由形 第8位

[絆・号外について追加とお詫び] 連合体育大会選手団名簿に掲載されていなかった選手を紹介し併せてお詫び申し上げます。
・1年男子4×100mRチーム 〇〇 〇〇くん(1-1)
・1年女子4×100mRチーム 〇〇 〇〇さん(1-1)

南千住マイスターのコーナー

二つ目は「戻れずの狐」。中通りにある神社のお稲荷さんは、時折連れ立って浅草あたりに遊びに出かけていたといわれます。そんなある日、帰ってこようとしたら、お社の近くに犬某(いぬのなにか)という名前の魚屋さんができていました。犬が苦手なお稲荷さんは社に戻れなくなりまして、南千住の路地を歩いていて、曲がり角の向こうに何かがいそうな気がした時は近くでこのお稲荷さん(狐)がさまよっているのかもしれない。



この弁天湯ができる前には、そこに弁天池という池がありました。池の中央の小島には弁天様が祀られており、夜な夜な琵琶の音が風に響いて聞こえてきたといわれています。池に棲んでいた蛙は、その音色に聞き耳を立てていました。池も弁天湯もなくなった今でも、時折その蛙が地中から顔をのぞかせるそうです。

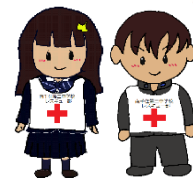


すみだ川妖怪絵巻 NGSUN
『つくみみガエル』
『戻れずの狐』
新心の妖怪たち

協力:
NPO法人
千住すみだ川



題字:校長 齊藤 進



ナンちゃん・ニーくん



学校だより
令和元年9月号
第98号
荒川区立南千住第二中学校

東京スタジアム完成

校長 齊藤 進

NPO法人千住すみだ川の海老江重光氏の協力により東京スタジアムの模型が完成、本校玄関ホールに展示されました。



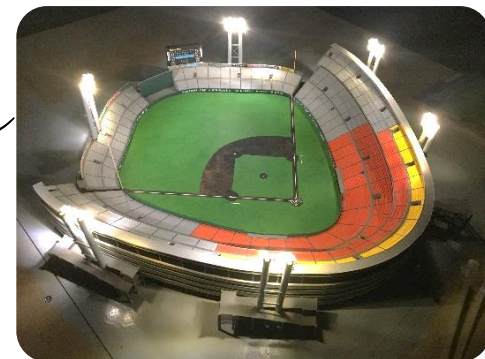
当時の「光の球場」
「歩いて学ぼう! 南千住検定」より

スタジアムの敷地にかつてあった千住製絨所は戦後、民間に払い下げられ、その敷地の一部が昭和37年5月、野球場「東京スタジアム」として開場しました。プロ野球球団・大毎オリオンズ(現・千葉ロッテマリーンズ)が本拠地として使用しており、オールスター戦を含むプロ野球の試合が行われ、王 貞治選手(現ソフトバンクホークス会長)、長嶋 茂雄選手(巨人軍終身名誉監督)などスター選手が活躍しました。公式戦第1号ホームランを打ったのは野村 克也選手(元プロ野球監督)です。夜になるとナイター照明が周辺に輝く光景から、「光の球場」と呼ばれました。ボーリング場やアイススケートリンクなども併設した、当時としては画期的な娯楽施設で、「下町の太陽」「下駄履きで通える球場」として親しまれました。昭和47年に閉鎖され、昭和52年に解体されました。跡地は南千住野球場と荒川総合スポーツセンターとなり、スポーツセンター1階ロビーには、往年の写真や思い出の品などが展示されています。

東京スタジアムを語らせた時間がいくらあっても足りないという地域の大人も多いと聞きます。野球少年だった私も何度となく観戦しました。榎本、醍醐、成田、アルトマン、村田兆治選手など往年の名選手のプレーがよみがえってきます。東京オリオンズ(大毎から名称変更)VS西鉄ライオンズ戦で西鉄のスタープレイヤー中西太選手のセンターへの弾丸ライナーやオリオンズのアルトマン選手の場外ホームランなど今でも脳裏に焼き付いています。

模型の照明はLEDライトを使用しており、タッチセンサーで誰でもライトをつけることができます。合わせて東京スカイツリーのライトも同様に改善しましたので生徒の皆さんも楽しんでください。

地域の方々には本校が取り組んでいる地域学習の一端をご紹介したくぜひご覧いただければ幸いです。



JRC 三首都交流会・都トレセン



青少年赤十字北京支部を訪問

JRC(青少年赤十字)では、夏休みに2つの教育プログラムを行いました。7月22日(月)から7月27日(土)までの6日間に開催されたのが三首都交流会です。これは東京(日本)、ソウル(韓国)、北京(中国)三都市の中学生代表が集まり、活動を報告したり、交流を深める事業です。

南千住二中からは、〇〇〇〇さん(2-2)が東京の代表に選ばれ参加しました。



万里の長城入り口前で記念撮影

今年の会場は中国・北京市。初日に開かれたウェルカムパーティから参加した皆さんとの交流がはじまりました。翌日は、青少年赤十字北京支部を訪問した後、患者に救命医療を行うことができるドクターヘリ数台が待機する救命救急の医療センターを見学しました。また、トレーニングセンターでは、消防隊員などが行う救命救急の厳しい訓練なども体験しました。なかでもバスで2時間をかけて訪れた万里の長城では、そのスケールの大きさに圧倒され、中国の悠久の歴史に触れて、参加者全員が感動をともにすることができました。その他にも北京市内の散策や各国の文化の紹介、活動内容の報告などを通して互いの国や文化を理解していきました。たとえ言葉が通じなくても、お互いのことを伝えようとする気持ちが大切であることに気づき、お互いを理解し協力できることを確かめ合う有意義な6日間でした。



日本からは盆踊りを紹介

8月1日(木)から4日(日)には、高尾の森わくわくビレッジで、東京都のJRCトレセンが行われました。トレセンは、JRCのリーダーを養成する学習活動で、今年は、**〇〇〇〇さん(2-1)と〇〇〇〇さん(2-1)の2人が荒川区の代表として参加しました。**4日間にわたり、障がい者や妊婦の体験、目隠しを

してお互いに声を掛けながら歩くフィールドワーク、救命救急訓練などを行いました。これらの活動を通して、相手の立場に立って考え、自分の力で、他の人の役に立ち、自分を活かす知識や技術、行動などを学びました。

荒川区中学生被災地派遣

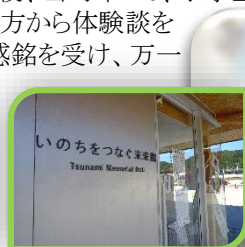
今年も荒川区中学校防災部による釜石市などの被災地訪問が行われました。**南千住二中の代表として参加したのは、〇〇〇〇くん(2-2)と〇〇〇〇さん(2-2)の2年生2名です。**8月1日・2日の2日間にわたり、宮城県南三陸町や岩手県釜石市の復興のようすを見学し、釜石東中学校の生徒とのグループディスカッションなどを行いました。

初日に訪れた南三陸町は津波により壊滅的な打撃を受けた地域で、今なお町民の半数近くの情報が見渡す高台に移設された献花台に全員で献花し、犠牲者のご冥福を祈りました。2日目に訪れた「いのちをつなぐ未来館」は、震災の記録と教訓を後世に伝え、災害から未来の命を守るために今年開設されました。資料館を見学した後、当時中3で、小学生の手を取って避難誘導を行い多くの命を救った「釜石の奇跡」の一人の職員の方から体験談を伺いました。たいへん貴重で心に迫るお話に皆感銘を受け、万一時、迅速で確実に避難活動を行うことの大切さと当たり前前の生活への感謝を心に刻みました。

被災地を訪れ、震災の悲惨さを実感し、震災の教訓を学び、そして、「今私たちにできること」を考え、さらに防災について意識を高めていく決意を新たにしました。



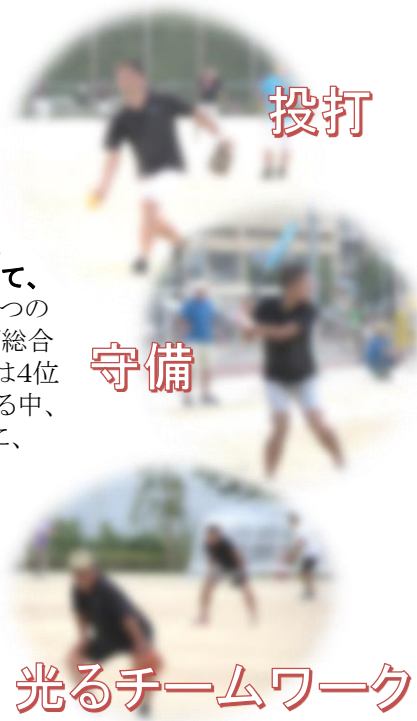
献花台前で慰霊の祈り



釜石の奇跡のおひとり、当時中学3年生だった職員の方から体験談を聞きました

PTAソフトボール大会

9月1日(日)に尾久の原公園グラウンドで、荒川区内の中学校10校対抗によるPTAソフトボール大会が行われました。本大会に南千住二中は毎年参加し、強豪チームとして例年上位を争ってきました。一昨年は初優勝、昨年は準優勝に輝き、今年も優勝候補の1チームとして注目され、チーム一丸となって闘志を燃やし試合に臨みました。この日も真夏を記録する暑い一日でしたが、**さらなる連勝を目指して、保護者、教職員が選手として20名以上集まりました。**試合は、5校ずつの2リーグ制によるトーナメント戦で行われました。南千住二中は2リーグ総合で3位入賞をかけて試合に臨みましたが、惜しくも敗戦を喫して今年は4位という結果に終わりました。他チームから打倒！南二中の声も聞かれる中、保護者の皆さんの、投打と守備のチームワークの光るプレーの数々に、応援にいらした皆さんからは熱い声援が飛び交い、グラウンドは大いに盛り上がりました。選手の皆さん、お疲れさまでした。保護者の皆さん、応援ありがとうございました。



投打

守備

光るチームワーク

検定試験合格者

《日本漢字能力検定》

準2級

《実用英語技能検定》

2級

準2級

3級

4級

5級

《実用数学技能検定》

2級

3級

4級

5級

6級

中学生科学コンテスト

実技部門で優秀賞受賞！

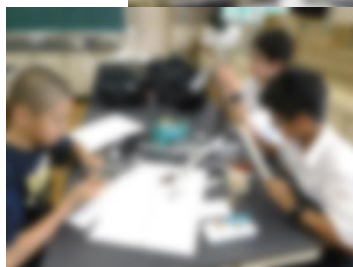


都内の中学1、2年生が3人1組でチームを作り、理科・数学などの能力を競い合う「中学生科学コンテスト」が8月1日(木)に、東京都立産業貿易センター台東館を会場として開催されました。今年には都内の国公立中学校54校から152チームが参加。4年目となる今年には南千住二中から3チームが出場。2年生からは、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さんの3人と〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん

の3人の2チーム、1年生からは、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さんの1チームが3人で協力して理数の難問に挑戦しました。当日は、ものづくりの能力とコミュニケーション能力を駆使して課題を解決する力を競う実技競技ⅠとⅡにそれぞれ90分間、最後に理数の複数分野から出題される筆記競技に70分間取り組みました。筆記競技では実生活・実社会に関連した課題が出題されました。それぞれが得意分野の問題を担当したり、難問には3人で力を合わせて取り組みました。実技競技Ⅰは、針金とパイプで作製したばねを使って測定装置を作製し、2種の物体の重さの精度を競うもので、予め競技内容が知らされていました。出場者は夏休み中に登校し理科室で実際に太さの異なる針金2本とパイプ2本を使いばねばかりを正確に早く作製する練習をして臨みました。実技競技Ⅱは、竹ひごと針金入り結束バンドで構造物を作製し、その上に載せる水の入ったペットボトルの本数と高さを競うものでした。計画を立て、それぞれが役割を決めて作製に取り掛かる必要があり、不都合が起きたときは再び協議して計画を見直し時間内に完成させなければならず、3人のコミュニケーション力が求められます。どのチームも苦戦する中で、2年生の〇〇くん・〇〇くん・〇〇くんチームが5つに分かれた競技場の一会場トップの記録を達成。上位3位以内の成績を記録し、実技Ⅱ部門の優秀賞に輝きました。11月24日(日)に開催される東京都の「科学の祭典」で表彰されます。入賞校には、有名な国立・私立中学校が連なる中、区立中学校の入賞は輝かしいものがあります。他の2チームも筆記やチームワークなどそれぞれの得意分野で力を発揮し、3チームともに、競技に楽しく取り組むことができ、科学に対する興味・関心をさらに深める機会となりました。



会場前で全員で記念撮影！



夏休みには勉強会を開催。チームで協力してばねばかりを作製。

中学生ワールドスクール

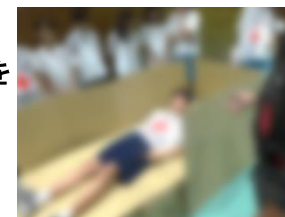
8月3日(土)～6日(火)の4日間、秋田県の国際教養大学で、荒川区中学校ワールドスクールが開催されました。これは、荒川区と秋田市が提携して、小中学校で学んだ英語力を使って、大学生や留学生たちとの英会話レッスンなどを通して、実際に英語を話し活用するスキルを高めることを目的に行われているものです。4年目となる今年には、2年生の〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さんと3年生の〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さんの5名が南千住二中から参加。1日目は、秋田市役所を表敬訪問した後、秋田を代表する祭りのひとつ竿灯まつりを見学するなどしました。2日目からは、生徒5名に大学生や留学生3名のグループに分かれ、“英語で説明してみよう”“50分で発音記号をマスター”“一言添えて広がる英会話”“留学生にインタビューしよう”などの10のアクティビティを体験しました。4日目には、各班で決めたテーマに沿って、パワーポイントなどを使い、すべて英語でプレゼンテーションを実施。4日間の成果を発表しました。

秋田の自然や文化・芸術に親しみ、大学生や留学生との英語での授業や交流を通して、英語を活用したコミュニケーションやプレゼンテーションスキルを育み、英語への興味・関心をさらに高めた4日間でした。国際教養大学の先生方並びに学生ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

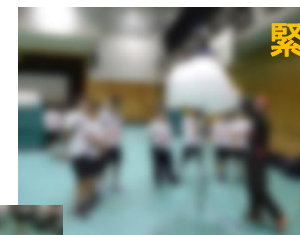
夏季防災訓練

毎年恒例となっているレスキュー部の夏季防災訓練が8月23日(金)に実施されました。今年には211名のレスキュー部員が参加。南千住二中が災害時に避難所となることを想定し、3つのグループに分かれて訓練を行いました。それぞれが、簡易トイレ・ベッド・投光機・発電機の組み立てや操作をアリーナで体験したり、緊急時のハイゼックス(炊飯袋に米と少量の水を入れて輪ゴムでしばって密閉し米を炊く方法)を学んだり、希望者は普通救命講習を受けるなどしました。その後、近隣の高齢者の皆さんを学校まで誘導し、全員で炊き出しのカレーライスを試食。夕方からは、平岡先生によるグループワーク「災害シミュレーション」も行われました。数人ずつのグループに分かれて、カードに描かれた毛布や携帯電話、懐中電灯などを避難所にもっていくために必要なものを選んで選びます。バッグの大きさは決まっており、大きさや何にどのように使うかをグループで話し合い、協力して楽しみながら、万一の災害のとき、生き延びるために必要なものは何かを考えました。

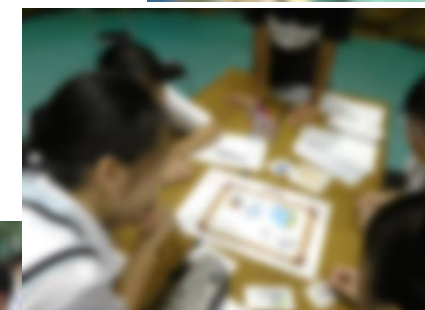
今回の防災訓練も、《気づき、考え、実行する》の南二中精神のもと、生徒は自主的に必要なことを考え行動しました。訓練後の片づけ、清掃も自発的に行うなど、レスキュー部のメンバーの成長を感じる1日となりました。



緊急時設営



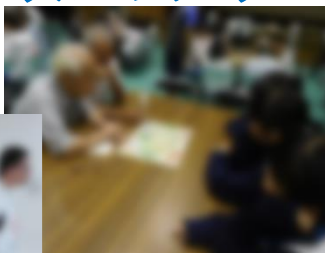
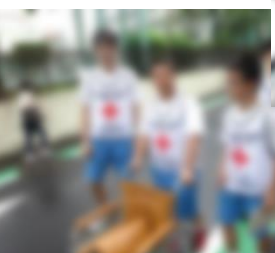
ごはんとかレーの炊き出し



グループワーク



救助、搬送の訓練



1年生 清里移動教室

9月4日(水)～6日(金)の3日間、「清里移動教室」が行われました。中学生になって初めての宿泊行事に、皆心を弾ませ、笑顔で元気よく運転手さん、ガイドさんに挨拶をしてバスに乗り込みました。今年のスローガンは『絆』。「支え合い協力しよう！、積極的に行動しよう！ 自然を楽しもう！」と一人一人が意識をもって行動し、絆を深められる3日間にしようという願いが込められています。

1日目、清泉寮の芝生の上でお弁当を食べた後、美し森オリエンテーリングに出発しました。各組1班から順番にスタートし、美し森山の山頂にある展望台を目指しました。途中の“南千住二中オリジナルポスト”を探して、ポストに書かれたクイズに答えるなどして山歩きを楽しみました。ぬかるんだ道に足を取られたり、途中道に迷う班もありましたが、**お互いを励ましあいながら、全班が元気に到着**できました。ゴールの美し森展望台では青空が広がり、山頂の山小屋でいただいた冷たいソフトクリームは格別でした。夜は、体育館や宿舍の周辺を使って、6人のレンジャーさんが、写真や実物を使って、八ヶ岳や清里の自然とふれ合う会を開いてくれました。天然記念物のヤマネの剥製やニホンカモシカの角を触ったり、色々な植物や昆虫の標本を見るなどして、楽しく学習できました。

2日目は、リフトを使って車山の山頂を目指しました。この日も晴天に恵まれ、山頂から雄大な景色を眺めた後、中腹の車山肩に向かって下山しました。5分も下ると眼下に美しい霧ヶ峰高原の景色が広がりました。お弁当の休憩を挟んで、急な下り坂が続く岩肌伝いに八島湿原ビジターセンターを目指しました。おおよそ1時間30分、ススキの穂がふくらみ始めた初秋の山歩きを楽しみ、湿原の木道散策を終えて、ゴールのビジターセンターでは、ふたたびソフトクリームを堪能。疲れも見せず、笑顔が溢れました。宿舍に戻り、食事・入浴を終えて体育館で、レク係が夏休み前から計画し用意した、クラス対抗伝言ゲームや風船バレー、そして、大ドッジボール大会などのレク大会で盛り上がりました。

今回の清里移動教室では、各係、部屋ごとの活躍も素晴らしいものがありました。各部屋では、荷物やアリーナ靴などがつねにきれいに整理されていました。トイレのスリッパをきれいに並べる姿もありました。班長、学習記録、美化保健、食事、入浴、レクの各係が時間通りに積極的に働きました。3日目の朝の宿舍清掃では、階段を雑巾で磨き上げる姿なども見られ、自主的に活動する様子に成長を感じました。退園式を済ませ、「笛吹川フルーツ公園」に向かい、アスレチックやお土産の購入などをして帰路につきました。

今年のスローガン通り、1年生一人一人にとって、学年という集団にとってお互いを思いやる心で、強い絆が育まれた3日間でした。



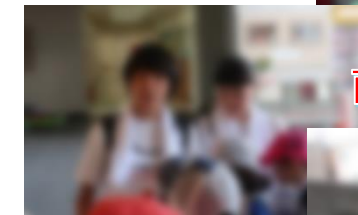
オリエンテーリングのゴール・美し森頂上で全員揃って記念撮影

励まし合い、3日間で6万歩を踏破！

わくわく街歩き探検隊

南千住二中学生がボランティアガイドとして地域の史跡・文化財の歴史や言い伝えなどを紹介する「わくわく街歩き探検隊」が9月8日(日)に行われました。今年は14人がガイド役を務め、小学生と一緒に、二瑞小からスタートして、**回向院、延命寺、千住火力発電所跡(南千住二中)、山王清兵衛の祠、日枝神社、素盞雄神社、円通寺**を巡り、二瑞小へ戻ってくるコースを6班に分かれて回り、わかりやすく丁寧に説明をしました。クイズを加えたり、史跡にまつわる物語を交えるなどして趣向をこらした説明は、“楽しい！わかりやすい”と小学生に大好評。これまで何気なく毎日通り過ぎていた景色が、その長い歴史などに触れて特別に輝くものになり、南千住の街をさらに好きになったことでしょう。

ボランティアガイドを務めた皆さん、お疲れさまでした。



南千住・街歩きの

ガイドを務めた皆さん。



芭蕉の大橋渡り



南千住駅前の松尾芭蕉像

納涼盆踊り大会でにぎわう8月24日(土)、荒川ふるさと文化館にて今年で奥の細道紀行から330周年を記念して、**出発の地・荒川区の西川区長さんと到着の地・大垣市の小川市長さんが芭蕉生誕の地・伊賀市で採火された「俳聖の火」の分火式を行うなど盛大なセレモニーが執り行われました。**その後、西川区長さんも参加して、「芭蕉の大橋渡り」が行われました。これは、江戸時代に松尾芭蕉が奥の細道に出発したのが千住大橋とされることにちなみ、毎年荒川区が主催しているもので、今年は南千住二中から6人が参加し、総勢50人の一行が南千住の街を歩き、当時を偲びました。芭蕉や町娘に扮し当時の旅装束に身を包んだ参加者たちは、荒川ふるさと文化館から、奥の細道矢立初めの地・千住大橋を渡って、大橋公園、芭蕉の句碑がある素盞雄神社を通過して、再び荒川ふるさと文化館に到着するまでのコースをおよそ2時間かけて歩き、地域の清掃活動や荒川区の俳句文化活動などをしました。また、対岸では、一人一句の俳句を詠みました。330年前の旅立ちに思いを馳せ、芭蕉とともに地域の歴史をたどった1日でした。